

南島の生態系回復に係るネズミ対策

平成28年12月22日
東京都小笠原支庁

資料6-2

①経緯

H17年度～ ネズミの被害とみられるアナドリの死骸を確認

H23年度 ネズミ駆除(根絶)実施①

H25年度 センサーカメラによりネズミの生息を再び確認

H26年度 ネズミ駆除(密度低減)実施②

⇒殺鼠剤使用に関する説明不足等を背景に中止

H27年度 夏 アナドリ卵と雛の食害確認

H27年度 冬 ネズミ駆除(密度低減)実施③

※殺鼠剤使用方法検証中のため限定的な使用

H28年度 夏 アナドリ卵の食害確認

②新たな知見



○ネズミ生息密度に地域差

- ・外周部で多く確認
- ・アナドリ被害確認箇所と一致

より効果的・適正量の散布が可能

○再侵入の可能性は低い

- ・計19個体の南島産DNAを分析
- ・父島南部集団との関連を否定
- ・現存のネズミはH23年度の残存個体の再増殖

小面積(28ha)の南島では
駆除手法の改良で根絶の
可能性あり

③今後の対応

○目標

新たな知見を踏まえ、
手法を改良して根絶
を目指す。

○今後の駆除計画(H29.1～)

①手撒き散布

- ・3回実施(1週間間隔)
- ・南島全体で約480地点(右図)
- ・駆除中のモニタリング結果次第で追加散布を実施

②ベイトステーション設置

- ・手撒き散布後に継続的な駆除圧
- ・南島全体で約230個
- ・駆除後のモニタリングにも活用

○環境・観光配慮

◆ノスリモニタリングの実施

二次毒性が懸念されるため飛来状況等を観察

◆土壌・水の分析

駆除実施中と実施後に殺鼠剤成分の残留状況を分析

◆観光利用への配慮

入島可能期間前に自然観察路付近の清掃

◆海上流出への対応

船から海上流出の監視・回収、父島南部の海岸清掃

